

あいめーる

WINTER

愛隣館通信

令和5年2月5日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリアビジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailinkan@magma.jp



愛隣館より徒歩5分、彦嶽宮(下宮神社)にて

今年(卯年)です。皆様にとりまして跳ねるうさぎのように、更なる飛躍の年になる事をお祈り致します。

お参りの後に神社の方からごぼう茶やみかんを振る舞って頂き、飲んでほっと一息冷えたからだを温めました。無事にお参りでき、帰りの道中では利用者の皆さんの表情も明るくとても良い一年のスタートとなりました。

今年のお正月は、自宅に帰省される方も多数いらっしゃいました。一月一日(日)と二日(月)に、彦嶽宮(下宮神社)へ初詣に行ってきました。初詣当日は晴天に恵まれ、利用者・職員共に新年の澄んだ空気を感しながら坂道を登り参拝へと向かいました。彦嶽宮(下宮神社)に到着すると「今年も一年健康に笑顔で過ごせますように」と願いました。鶴崎さんは「今年はたくさんお出掛けしたの家に帰れますように、家族に会えますように」とお願いされたそうです。皆さん思い思いに願い事をされ、おみくじを引いたり、お守りを買われる方もいらっしゃいました。おみくじで大吉を引いた方は「今年(卯年)は幸先がよかですね」と二〇二三年を占う良い結果に大満足の様子でした。

謹んで新春のお慶び申し上げます。新型コロナウイルスにより自粛生活が続いておりますが、無事にお正月を迎えることができましたことを嬉しく思います。

生活支援員 坂本 瀬里奈

入居者「初詣」



食生活課手作りのお節料理



館長 三浦 貴子

新年は、穏やかな元日を迎えることができました。利用者の方々には、お屠蘇、お雑煮、お節料理を、召し上がれるように工夫したそれぞれの形態で提供し、ゆっくりと楽しめました。

パッと見ると、この方にその角もちは大きすぎるのでは？と心配しても、口中で分解する加工品が用意されておりました。干し柿にバターをサンドしたおせちの一品を好まれる方、海老フライ、カニフライ、からあげなど人気で、老人ホームとの違いも感じられます。

ふり返りますと、昨年クリスマス前に、入居で初めてのコロナ感染が発生し緊急事態。入居者六名まで拡がりました。ご家族の皆様にもご心配をおかけしました。また、面会制限にご協力頂いたことに感謝しています。

一月十七日からは、GHぴあハウスで、四名の方が感染し、全セクションで協力体制を敷き対応しています。スタッフのみんなのがんばりに、胸詰まる思いがします。

この狭間でしたが、利用者の方々が心安らぐお正月を迎えられ、近くの彦岳宮初詣にも同行できた、わずかな日常の回復を喜びたいと思います。

話は変わりますが、一月二十三日には、熊本地裁で、旧優生保護法下の強制不妊手術を違憲とする判決があり、請求権の二十年消滅を定めた「除斥期間」を適用しないとされました。

裁判長は「特定の障害や疾病のある者や近親者の生殖機能を奪う極めて強度・強烈な人権侵害。国は半世紀にわたり旧法を存置し、障害者への差別や偏見を正当化・固定化してきた」と指摘。歴史をさかのぼって人権回復への一歩が始まったこと、熊本地裁を誇りに思うニュースでした。

スーパームーン家族みかん狩り

児童発達支援管理責任者

新居 礼美

十二月三日（土）、児童通所支援事業所スーパー

ムーン懇談会・みかん狩りを開催しました。利用児童ご家族、スタッフ総勢約六〇名の参加があり、賑やかで、とても温かい雰囲気でした。懇談会開始まで、子どもさん達のスーパームーンでの様子をプロジェクトにて映



しました。保護者の方に、より子どもさん達の成長を感じて頂く機会となりました。

懇談会では、三浦館長の挨拶から始まり、保護者の方より「子どもの成長」について語っていただきました。懇談会後は、準備体操として、参加者全員でバナナくん体操を行い、準備万端で愛隣農園に場所を移しました。

愛隣農園では、理事長や館長にみかんの採り方を教えて頂きながら、お天気にも恵まれた中みかん狩りを行いました。三回目の開催という事もあり、子どもたちのハサミの使い方は上手になり、特に美味しいみかんを選んで採っていました。初めての子どもも保護者も楽しみながら「おいしいね〜甘いね〜」等感想を言い合い、自分たちで採ったみかんは、より一層美味しかったようです。

今後子ども、保護者、スタッフとの交流がより深まる楽しい企画を計画したいと思えます。

第三者評価受審前説明会

愛隣館では、今年度の事業計画の一つとして、『福祉サービスマス第三者評価』の受審を掲げています。数年前より計画していたもののコロナ禍等で延期しており、このたびNPO法人ワークショップ『いふ』（日浅寿子理事長）へ受審を依頼。十二月六日契約を結び、一月十二日講師としてお招きし職員説明会の運びとなりました。

説明会では、本事業は質の高い福祉サービスマスを

業者が提供するため
に、公正・中立な第三
者機関が専門的・客
観的な立場から評価
を行う仕組み。職員
個人個人の評価では
なく、施設全体を目
的とした評価である
ことなど分かりやす
く説明されました。

今後は、主に①職
員アンケート②利用

者への説明③書類審査④訪問調査⑤評価報告書作
成⑥結果報告・公表⑦県への評価結果報告という流
れになります。より良い福祉サービス提供をめざし
職員一同努めてまいりたいと思います。



令和5年(2023年)冬号

愛隣館通信

ヒューマン・ライツ委員会

ヒューマン・ライツ委員会では、各部の定例の集まりにおいて、勉強会を実施していますが、国連障害者権利委員会が、対日審査の総括所見で日本政府の現状の障害者施策に対する勧告を出したことに伴って、その内容を振り返ったり、自分たちが今後目指すべき福祉の在り方について考えてみる機会をもっています。

世界的な人権に対する考え方や動向について共有、意見交換しながら、自分たちの意識向上につなげていけるような取り組みも行っていく方針です。

新人職員紹介

地域・生活支援員



津留 美穂

十月から愛隣倶楽部で働かせていただいております。十六年ほど前、私は二十代のころに愛隣館本館で介護スタッフとして働いておりました。当時からおられる利用者の皆さん、職員の方々と会え、また愛隣館とご縁があり働けることを嬉しく思っています。

一から介護技術、知識を身につけて少しでもお役に立てる様に頑張ります。利用者の方々、職員の方には至らない事も多くご迷惑をおかけする事があると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



生活支援員

崔 新卓

十二月二日から、愛隣館に入職(デイケア配属)

しました。生まれは、中国の吉林省四平市です。十九歳の時に来日し、日本文理大学の経営経済学部に入學。社会福祉に興味があり、高齢者と接することが好きで福祉業界を選択。社会福祉実習を通して、利用者の方々に「ありがとう」と言われることも

嬉しく、さらに福祉職に就きたいという気持ちが高まりました。

デイケアの皆さんと一日を通して関わりながら、仕事を覚えているところです。利用者の方々が教えて下さることも多く、また、スタッフの方々が優しく丁寧に教えて下さるので少しずつ職場環境や仕事に慣れてきました。

早く愛隣館に貢献できるよう、これからも頑張ります。

技能実習生



チエリンダ・フィンキー

アスマラ・プトリ

皆さんこんにちは、インドネシアから来ました。十二月中旬に愛隣館で働き始めたばかりです。

憧れの愛隣館で働くことに感謝しています。私もありますが、丁寧に教えて頂き、完璧ではありませんが、少しずつ仕事に慣れました。

利用者の笑顔と幸せは、私の励みです。今後ともよろしくお願ひします。

ARTBRUT展覧会

相談支援専門員

松本 薫

二の丸公園のイチヨウの葉も落ち始め黄色い絨毯が美しい頃、県立美術館本館第一展示室にて生の芸術ARTBRUT展覧会V.O.I. 8(十一月十六

日(十一月二十七日)を開催しました。

今回も初出展の作家さんを含め二十五名の作品が、県立美術館の展示室を彩りました。緻密な作品から大胆な作品、心が動きザワザワとする表現。



作家さんの個性溢れる展覧会となりました。会場内では、作家ライブも行われ、実際に作品を生み出す姿に、観覧者から「えー！すごいー！」息をするのも忘れるくらい集中して見ました」など生の声を聞くことも出来ました。会場内では作家同士の交流も生まれており、一緒に写真を撮ったり、言葉は交わさなくとも互いの作品に影響を受けあって制作活動への刺激をもらっている姿に感動しました。

Vol.8は一八〇六名の来訪者と皆様のお力添えを頂き、無事会期を終えることが出来ました。Vol.9でまた、沢山の作品、関係者の皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

くまもと障がい者芸術展

陶芸講師 境 喜美代

十一月二十二日(火)～二十七日(日)迄、熊本

県立美術館において「くまもと障がい者芸術展」が開催されました。愛隣館からの作品は、本館、デイケア、愛隣倶楽部から絵画・手芸・陶芸と合計二十三名の出品となりました。

今回は、全員でデイケアご利用の小川ハツ子さんの作品「うさぎの祭」が陶芸の部にて「心に残った作品」として多くの方から支持を受けハートウィーク賞を受賞されました。この作品は、新型コロナウイルスで山鹿灯笼祭や夏祭りもないので、来年の干支うさぎでコロナを吹き飛ばして再び楽しいお祭りが出来ればと、小川さんの願いを込めた作品となっています。



広報やまが取材：陶芸うさぎ作成風景

十二月には、熊本日日新聞社にてワークショップの開催と、山鹿市役所総務部広報課より取材がありました。

そして、愛隣工房にて干支(卯年)の置物の作成風景が広報やまが一月号に掲載されました。

日常風景の「コマ」

利用者の皆さんが行っている様々な活動や訓練等、日常の「コマ」を「家族の皆様にご覧いただけるよう

に掲載していきます。(同意を取っています)

宮本浩二さん
初めて電動車イスで本館廊下まで行きました。楽しかった。



今坂和子さん
お天気のいい日のルーティンはお庭掃除です。グーです！



お知らせ

◆ クリスマスプレゼント

- ・ ヤマザキパン様
- ・ 川口板金様
- ・ ケーキ
- ・ 明治安田生命様
- ・ お菓子

◆ 令和五年のカレンダー「ご寄付をお願いしたところ」家族や職員よりたくさん頂きました。ありがとうございました。

◆ バレンタイン家族会延期のお知らせ

毎年二月頃に企画していた本会ですが、新型コロナウイルス感染状況をふまえ、三月以降の開催を検討しております。改めて通知しますので宜しくお願い致します。